



総務省

「災害情報伝達に関するセミナー『アンサー』」を開催 －防災担当者の声に応え、昨年に続いて再度開催しました－



挨拶を行う大橋局長

近畿総合通信局は、平成30年11月5日に開催した「災害情報伝達に関するセミナー」に続く第2弾のセミナー『アンサー』を、1月11日に大阪市内で開催し、地方自治体等の防災担当者約150名が参加しました。

本セミナーは、前回のセミナーの参加者から、「もっと詳しく聞きたかった」等のご意見等を頂いたことを踏まえ、改めて課題解決のために知恵を出し合う場を設けようと企画したものです。

冒頭、当局の大橋秀行局長が、「伝えるべき内容を伝えつつもりでも伝わっておらず、また、もはや自治体がやるべきことをやれば伝わるという時代ではない。今日の会合を機会にいろいろなものを持ち帰ってほしい」と挨拶しました。

はじめの講演では、大阪管区気象台の菊田晴之氏から「南海トラフ地震に関連する情報」と題して、南海トラフ沿いで発生する地震の特徴、各地の液状化、長周期地震動、津波発生についての防災対応、気象庁の地震津波情報とその活用等について説明がありました。説明後には、津波到達時刻の考え方や注意報・警報の発令について、参加者との間で活発な質問・応答がありました。

次のパネルディスカッションでは、前回のセミナーのアンケート結果を踏まえ、疑問点などについて大橋局長からパネリストに質問するというスタイルで進み、双方向のやりとりにより、実践的な対応策等の理解を深めました。

また、セミナーに併せて防災関連機器の展示会を実施し、当日展示した機器を詳しくご紹介しました。



パネルディスカッションの様様

<パネルディスカッション：パネリストと主な発言内容>

株式会社イー・ビー・シーリブラ 木戸 崇之氏

朝日放送が取り組む「災害情報エリア限定強制表示」について紹介

NPO法人多言語センターFACIL 吉富 志津代氏

外国人コミュニティを介して外国人へ情報を伝達することの有用性と、自治体がコミュニティとの関係をつくっていくことの重要性を説明

日本音響学会 栗栖 清浩氏

「防災無線が聞こえにくい」という自治体の声を受けて、改善に向けての実証実験を年度内に実施

東京マルチメディア放送株式会社 藤井 大輔氏

防災行政無線の補完・代替として活用できる-Lowマルチメディア放送を使った情報伝達システム「V-アラート」に係る費用について説明

和歌山大学 佐藤 周氏

和歌山県情報通信化協議会の取組と、臨時災害放送局の設置・運営訓練の実施状況を説明

加古川市 小山 良輝氏

「かがわ防災アプリ」の他自治体での活用の可能性と運営費用について説明

株式会社フューチャーリンクネットワーク 岡田 亮介氏

「かがわ防災アプリ」開発の観点から他自治体での活用と熊本地震で運用した避難所配信サービスについて説明



総務省

e-かわらばん近畿

近畿総合通信局

2019年1月25日

第264号 2/2

「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ2018」

— 優秀作品発表会を開催し、各賞を表彰しました —

近畿総合通信局と「スマートフォン時代に対応した青少年のインターネット利用に関する連絡会」は、平成30年12月15日、大阪市内で動画コンテスト「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ2018」の優秀作品発表会を開催し、最優秀賞等の各賞の発表及び表彰を行いました。



生徒部門最優秀賞受賞との記念撮影

「動画フェスタ」は、①啓発動画の制作を通じた制作者自身のインターネットリテラシーの向上及び②制作された動画作品による幅広い層に対する啓発を目的に開催している動画コンテストです。

4回目の開催となる今年は、近畿管外である石川県、三重県、岡山県からもご応募いただき、計181作品（生徒部門163作品、学生・社会人部門18作品）の応募がありました。最優秀及び優秀賞の受賞者は以下のとおりです。

受賞作品及びそのほかの各賞の受賞者は当局ホームページをご覧ください。

こちら↓

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/sumaho-kinki/index.html>

【最優秀賞】

生徒部門	「知ってる？フィルタリング！」	大阪市立九条南小学校 九条南☆23
学生・社会人部門	「スマホをポッケに」	Team Nara Mamas

【優秀賞】

生徒部門	「ネットのネット」	雲雀丘学園中学校 HANABI
	自己防衛—あなたの情報大丈夫？ 言わない・書かない・流さない—	兵庫県立大学附属高等学校情報モラル委員会 C-Group
学生・社会人部門	「Free Wi-Fiにご用心！」	兵庫県立大学 2回生A班

「ミライノピッチ2018」を開催

— ICTベンチャーが持つアイデアの事業化を支援します —



「ミライノピッチ2018」開催の様相

近畿総合通信局は、大阪イノベーションハブ（OIH）、国立研究開発法人情報通信研究機構及び近畿情報通信協議会との共催により、平成30年12月16日、「ミライノピッチ2018」を開催しました。

「ミライノピッチ」は、ICTベンチャーの起業家を目指す方（学生・一般）がお持ちのアイデアの事業化を支援することを目的としたイベントです。なお、「起業家甲子園・起業家万博（総務省、(国研)情報通信研究機構が共催）」の近畿地区予選としても位置付けられており、成績優秀者（以下の「NICT賞」受賞者）を全国大会へ送り出すこととしています。

そのほかの各賞の受賞者はOIHホームページをご覧ください。こちら↓

NICT賞(学生部門)	「Face IDを活用した脳卒中発見アプリ」	滋賀医科大学 高畑 翔吾 氏
NICT賞(一般部門)	「空き家活用データベース『AKIDAS』の構築」	空き家活用株式会社 和田 貴充 氏

<https://www.innovation-osaka.jp/ia/event-report/event-report-5008/>